「千代田区商工振興基本計画（素案）」に関する区民等からの意見と区の考え方

【意見数4件】

	意見者	意見の概要	区の考え方
1	区内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体①	地域の魅力から「稼ぐ力」を引き出しブランドアップや地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、各地域で新しい組織ができています。秋葉原では、街の豊富な観光資源を最大限に活かすための意見交換の場、受け入れ環境整備、ツアーの造成など観光振興強化が図れる仕組みや施策を、行政や観光関係者と地元住民・事業者が一体となって活動できるように、昨年の7月に「AKIBA観光協議会」を設立し、国内外の訪問客に満足してもらえる環境を整えています。AKIBA観光協議会を観光振興の具体例としてご紹介をお願いします。	貴重なご意見ありがとうございます。本計画には、主に区と密接に関連する施策を掲載しています。観光振興につながる地域団体等の主体的な活動に関する情報は、観光情報の発信機能を強化しながら、効果的な発信ができるよう検討していきます。
		千代田区は地方との連携に力を入れています（P45より）。広域連携だけでなく秋葉原は、近隣の日本の伝統文化を発信するエリアとお互いの強みを活かし訪問客の満足度が更に向上できます。更には人材の育成や人の交流で人生の豊かさや双方の観光振興につながります。地域連携DMO推進を千代田区商工振興基本計画に入れて頂けますか？	区では、観光ビジョンや基本計画において、多様な連携の中核を担う組織として、千代田区観光協会を位置付けています。このため、千代田区観光協会の取組みへの支援を通じて、各種の連携を支援していきます。
		秋葉原には大きな公園など公開空地が無くイベント等は商業施設を利用しています。しかし、現在の料金では地元の事業者が利用できず疲弊しています。これを解消するためには、秋葉原の中央に位置する中央通りの活用が急務です。AKIBA観光協議会が中心となって実証実験の推進を行う事をご紹介頂けますか？	本計画には、主に区と密接に関連する施策を掲載しています。秋葉原での活動については、秋葉原タウンマネジメント株式会社や区関係所管とご相談ください。
2	区内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体②	秋葉原の現状は、観光客の減少や店舗経営の厳しさなど、外から見た秋葉原とはだいぶ乖離しています。まず、秋葉原の良さでもあるサブカルチャーですが、豊島区の池袋にすべての面において、負けてきています。豊島区の高野区長は、区役所跡地にシネマコンプレックスを建築するなど、まちへのテコ入れが大胆かつ手腕があると感じます。対して秋葉原はどうでしょうか？ 千代田区はテコ入れどころかナニもしてくれていない印象があります。そんな秋葉原にわたしは危機感をもっています。マンション立てる、住民を増やす、いいと思いますが、秋葉原に関しては、マンションよりも商業施設の拡充を強く求めます。500名以上収容可能な施設や映画館のような大型会場が必要です。豊島区には2年後、巨大なシネコンが完成します。文化に精通している区長の施策により、池袋は復活し、秋葉原が死滅していきます。地元で働いている人間は、本当にこれぐらいの危機感をもっています。もっと真剣に、まちづくりに関わっていただいきたい。千代田区には、もっと秋葉原という、世界的にも価値がある土地を活かすような施策をドンドンと推進していってもらいたいと本気で思います。	貴重なご意見ありがとうございます。本計画には、主に区と密接に関連する施策を掲載しています。外神田地区には地域の皆さまと一緒に作り上げたまちづくりのルールである「地区計画」があり、地域主体のまちづくりが進められています。

	意見者	意見の概要	区の考え方
3	区内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体③	【秋葉原地区における国内外観光客に向けたインフォメーションセンターの整備】 千代田区、特に秋葉原地区における国内外観光客に向けた情報発信のスペースが少ないです。秋葉原中心地に分かりやすいインフォメーションセンターを設置することが重要と考えます。秋葉原にある既存の案内所は、いずれも規模が小さい上に交通結節点から離れており、案内所への行き方さえ分からないのが実情です。 たとえばJR秋葉原駅構内や先述の「秋葉原・天王洲・羽田空港舟運プロジェクト」でも指摘されている万世橋船着場の整備やその付近に民間企業も情報提供できるインフォメーションセンターが常設できれば、我々はより具体的に千代田区のみならず日本全国の観光情報を日々観光客へダイレクトに発信できると確信しております。ただ一民間企業がその具体的なそのスペースを用意することは物理的、金銭的にも困難なため、千代田区など公的なサポートが必須となってきます。国内外の観光客を迎え入れる「おもてなし」にはハード・ソフト両面からのサポートが必要です。千代田区には主にハード面でのサポートをお願いし、ソフトの面では我々民間企業に任せるようなスタイルを取ることこそ、商工振興基本計画（素案）の基本施策を実現する近道と考えます。 具体的には商工振興基本計画（素案）基本施策4「地方との連携・地方との連携による商工業の振興」にもあるよう、区内商工関係団体と地方商工関係団体の交流事業を通して、日本のアニメやゲーム、音楽などポップカルチャーを指していた「クールジャパン」の代表格である秋葉原を始め、小川町スポーツ店街や楽器専門店街、神保町の古書店街など千代田の潜在的に持つ魅力の発信はもちろんのこと、民間による地場ツアー実施や海外からの観光客でも安全・安心に使える現地共通商品券などを通して、滞在先で文化やレジャーなどの体験やサービスの提供に支出する「コト消費」への誘導を図っていきたいと考えております。またこれらの発信によって日本全体における観光拠点としての千代田区の価値を押し上げ、「日本の観光を知るにはまず秋葉原、そして千代田区へ」という認識を国内外にアピールすることが可能であり、重要であると考えております。	貴重なご意見ありがとうございます。区は、外神田に新たな案内所の整備を検討中です。なお、観光客に的確に観光情報を提供できる体制を整備することが重要になりますので、区内の観光案内所を通じて観光客のニーズを把握するために、区では定期的な情報交換の場をもうけています。秋葉原地域を含めた区内全域において、観光案内所間の連携を強化することで、観光客の満足度を高める施策を展開していきます。
4	在勤①	第5章の千代田区が目指す商工業振興の方向性で示されている4つの基本施策、即ち中小企業振興、商工業の活性化、観光振興、地方との連携は、いずれも重要な視点・方向と考える。 千代田区のエリアのなかで、秋葉原は、この4つの方向にとって、最重要な位置づけが与えられる。すなわち、1大手町のような大企業エリアでなく、多くの中小（中堅を含む）企業、或いは事業者が集積しており、2また、商工業全般の集積をベースに、商店街・各種業界団体、地域活性化に励むNPOなど多様な組織が、街づくり・活性化に参画している。3観光面においても、外国人を含め、多様な訪問客があり、東京・日本の顔となっている。4さらに、国内の各地域との連携も、例えば、マンガ王国鳥取と高知の条約調印式を行ったように、様々なかたちで進みつつある。 したがって、千代田区の計画において、特に秋葉原エリアを重要なエリアと位置づけるとともに、現代における多様性を受け入れるエリアに育てて欲しい。例えば、コスプレーヤーの闊歩、アーティストの路上表現など、広く、明るく、楽しいエリアの創出に努めてほしい。こうした対応が、時代にマッチしたクリエーターを育て、文化の発信地となり、ひいては商工業、中小企業の発展、また地域の振興につながるものと考える。 連携について、地方との連携は大切な視点であるが、あわせて近隣エリアとの連携も重要と考える。既に、秋葉原と上野の連携が実務的にも動き出そうとしている。また、その秋葉原・上野の軸をひろげ、「東京文化資源区」として谷根千・湯島・神保町などを加えたゾーンでの構想も始まっている。 これに加えて、庶民文化の集積にスカイツリーを加えた浅草・本所エリア、また秋葉原・柳橋から隅田川を挟んだ両国エリアには、江戸博に墨田北斎美術館・刀剣博物館が揃う。この秋葉原、上野、浅草、両国の四角いスポットは、観光のみならず、商工業の振興や地方との連携にも大きな可能性がある。地方との連携に加えて、近隣エリアとの連携にも、計画上着目されたい。 それらに加えて、総武線・常磐線・京浜東北線・つくばエキスプレスなど千代田区の東・北との動脈をいかした連携は、東京の東・北との連携をうみだすことになろう。首都圏の重要なエリアへの出発点となりうる。 この出発点に対し、逆にそのエリアからのエネルギーが集約され、千代田区の商工業の発展にもつながるのではないだろうか。	貴重なご意見ありがとうございます。本計画では、商工業者や商工業者で構成する団体等の主体的な経済活動を側面支援することにより商工業の振興を図っていきます。今後、地域の特性に応じた支援策についても検討を進めていきます。なお、秋葉原では、地域の人々や来街者が守る地域の自主ルールである「秋葉原協定」が制定されています。 区では、観光ビジョンや基本計画において、多様な連携の中核を担う組織として、千代田区観光協会を位置付けています。このため、千代田区観光協会の取組みへの支援を通じて、各種の連携を支援していきます。